

II 農場運営

雑誌名	鹿児島大学農学部農場年報
巻	6
ページ	9-22
発行年	2010
URL	http://hdl.handle.net/10232/21120

II 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2010. 3.31 異動
毛利由美子：総務部人事課安全衛生・サービス係長（附属農場事務係長（総務担当））
2010. 4. 1 新規採用
茂利 進一：再雇用職員 附属農場事務係（業務担当）
- 配置換なし
2010. 4.20 新規採用
日高真衣子：事務補佐員 附属農場事務係（業務担当）
2010. 5.16 辞職
佐土原 隆：附属農場事務係係員
2010. 6.30 辞職
内村 利美：再雇用職員（入来牧場技能職員）
2010. 7. 1 異動
桑畑 実代：附属農場事務係主任
2010. 8. 9 新規採用
原口 隆一：技能補佐員（入来牧場）
- 2010.12. 1 新規採用
朴 炳宰：附属農場准教授（植物部門主任）
2011. 3.31 退職
吉住 博孝：附属農場事務係長（業務担当）
尾前 純子：附属農場事務補佐員
下竹原さおり：入来牧場事務補佐員

2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では、技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

(1) 花卉農家・和泊町実験農場の視察

- 期間 平成22年11月25日～26日
場所 和泊町実験農場（鹿児島県大島郡）
鹿児島県大島支庁沖永良部事務所（鹿児島県大島郡）
研修者 学内農事部 城戸 麻里技術職員

(2) 平成22年度アーク溶接等業務の特別教育

- 期間 平成22年12月1～3日 平成23年2月1～3日
場所 (社)鹿児島県労働基準協会鹿児島教習所（鹿児島市七ツ島）
研修者 学内農事部 城戸 麻里技術職員
学内農事部 田浦 一成技術職員

(3) 平成22年度農業機械化講習習

- 期間 平成23年1月17～21日
場所 鹿児島県立農業大学校（日置市吹上町）
研修者 入来牧場 山口 浩特任准教授
入来牧場 石井 大介技術職員

(4) アセロラ農家の視察

- 期間 平成23年2月2日～4日
場所 沖縄県農業研究センター名護支所（沖縄県名護市）
本部町アセロラ農家（沖縄県本部町）

農業生産法人 楽園おきなわ（沖縄県中頭郡）
糸満観光農園（沖縄県糸満市）
研修者 唐湊果樹園 勸米良 祥多技術職員

(5) 平成22年度技術研究会（熊本大学）

期間 平成23年3月17～18日
場所 国立大学法人 熊本大学
研修者 学内農事部 野村 哲也技術総括
唐湊果樹園 福留 弘康技術専門職員
指宿植物試験場 中野 八伯技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

(1) 学外

(学内農場農事部)

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成22年4月8日 39名
内容：2年ろ組の生活科授業のため
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成22年4月14日 69名
内容：春さがし（春の自然について観察する）
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成22年4月14日 40名
内容：2年は組の生活科授業のため
- ・めぐみ幼稚園
時期：平成22年5月18日 幼児55名 教師・保護者7名
内容：幼児の体験活動のため いもの苗の植え方を知る 土の感触を味わう 自然の中でのびのびと遊ぶ
- ・市立荒田小学校1年生 63名 引率者3名
時期：平成22年9月16日
内容：生活科 秋をさがそう 秋の田畑の様子を観察したり，秋の虫をみつけたりする
- ・市立荒田小学校1年生 63名 引率者4名
時期：平成22年10月14日
内容：生活科 秋をさがそう 秋の様子を感じたり，小さな生き物を見つけたりする
- ・めぐみ幼稚園 幼児60名 教師10名
時期：平成22年10月26日
内容：春に植えたいものいもほりをする，秋の自然の中でのびのびと遊ぶ
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校3年生 5名
時期：平成22年11月4～5日
内容：職場体験学習
- ・教育学部附属幼稚園 幼児32名 引率者2名
時期：平成22年11月30日
内容：5歳児を対象とした園外保育【学内探検2】で，学内の施設を知り，秋の自然に触れたり，発見を楽しんだりする 附属農場で飼育している動物を見学する
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校2年生 40名 引率者1名
時期：平成23年3月23日
内容：2年は組の生活科授業のため

(唐湊果樹園)

- ・鹿児島県立指宿養護学校 2名
時期：平成22年10月19日
内容：指宿養護学校高等部の生徒2名を対象とした産業現場等における実習の実習地として使用する
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 幼児66名 引率者6名
時期：平成22年11月2日

農場運営

内容：唐湊果樹園でのみかん狩り体験を通して、収穫の喜びを味わったり、大学の施設について知り、感謝の気持ちをもったりする 唐湊果樹園の野山の自然に親しむ

- ・鹿児島大学教育学部附属中学校3年生 6名

時期：平成22年11月4～5日

内容：職場体験学習

- ・未就学児童 18名

時期：平成22年11月25日

内容：果樹園見学と収穫体験

(指宿植物試験場)

- ・指宿熱帯果樹研究会 20名

時期：平成22年6月24日

内容：指宿市内の農家で研究会の勉強・交流会の開催

- ・熊本県農業研究センター天草農業研究所 4名

時期：平成22年7月29日

内容：露地およびハウス栽培におけるレイシの栽培状況・管理方法等の視察
その他、指宿植物試験場で栽培されている亜熱帯果樹の栽培状況の視察

- ・おふくろの里 20名

時期：平成22年9月9日

内容：施設見学

- ・指宿熱帯果樹研究会 20名

時期：平成22年9月22日

内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のための研究会である指宿熱帯果樹研究会の開催

- ・武雄市営業部農林商工課 5名

時期：平成22年10月12日

内容：武雄市における新たな農産物として、熱帯性・亜熱帯性の果実の作付けが可能かどうかを検討するため、これらの果実の生育条件等についての調査を行う

- ・鹿児島県立指宿養護学校 2名

時期：平成22年10月12～22日

内容：指宿養護学校高等部の生徒2名を対象とした、産業現場等における実習の実習地として使用する

- ・指宿熱帯果樹研究会 20名

時期：平成22年11月18日

内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のための研究会である指宿熱帯果樹研究会の開催

- ・指宿熱帯果樹研究会 20名

時期：平成23年3月18日

内容：地域貢献の一環として行っている熱帯果樹振興のための組織である指宿熱帯果樹研究会の開催

(2) 学内

(学内農場)

4月14～16日 鹿児島大学農学部附属農場内における実験のため(2～3名)

4月30～2月28日 理学部地球環境科学科卒業論文にかかる調査(ハチの生物相)(1名)

2月7日 作物生産学講座修士論文、卒業論文発表に係る交流会(35名)

(指宿植物試験場)

4月9～10日 卒業研究、修士論文にかかる調査(2名)

4月24～25日 卒業研究、修士論文にかかる調査(5名)

6月19～20日 卒業研究にかかる調査(1名)

6月25～26日 卒業研究にかかる調査(1名)

7月3～4日 卒業研究にかかる調査(1名)

7月9～10日 卒業研究にかかる調査(1名)

7月23～25日 卒業研究にかかる調査(2名)

7月31～8月1日 卒業研究にかかる調査(2名)

9月10～12日 卒業研究にかかる調査(2名)

9月17～19日 卒業研究にかかる調査(2名)

10月16～17日	卒業研究にかかる調査 (1名)
10月29～30日	卒業研究にかかる調査 (1名)
11月12～14日	卒業研究にかかる調査 (5名)
11月19～22日	卒論にかかる調査 (1名)
11月26～27日	卒論, 修論にかかる調査 (7名)
12月3～4日	卒論, 修論にかかる調査 (6名)
1月25日	グァバ視察のため (52名)
3月19～20日	平成23年度修士および卒業研究のための準備 (3名)
(入来牧場)	
4月12～13日	シカの実験 (1名)
5月11～12日	シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)
5月18～22日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
5月19～20日	シカの実験, 放牧肥育牛, エコフイード (3名)
5月24～25日	シカの実験 (1名)
6月1～5日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
6月14～18日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
6月29日	卒業研究にかかる調査 (1名)
6月29～7月3日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
7月12～16日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
7月20日	エコ行動調査 (4名)
7月21～22日	卒業研究にかかる調査 (3名)
7月26～30日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
7月27日	シカの実験 (1名)
8月17～21日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
8月30～9月3日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
8月30～9月8日	卒業研究で牛の排糞量を測定するために毎日2回定刻に薬を投与する為 (3名)
9月13～14日	飼育シカの試験 (1名)
9月15～18日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
9月16～17日	家畜人工繁殖実習 (家畜人工受精師講習会) のため (24名)
9月27～28日	卒業研究で牛の24時間行動調査を行うため (10名)
9月27～10月1日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動調査 (日中) (1名)
9月29～30日	実験 (牛の行動調査) (3名)
10月4～6日	牧場採草地へのシカの侵入調査 (1名) 放牧肥育牛, エコフイード (2名)
10月5～6日	試験牛の24時間行動観察を行うため (7名)
10月11～15日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 飼育シカの行動観察 (日中) (1名)
10月12～13日	シカの実験, エコフイード実験 (3名)
10月18～20日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名)
10月28～31日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名)
11月2～3日	牧場採草地への野生シカの侵入調査

農場運営

11月2～7日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月4日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験 (5名)
11月4～7日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月9～12日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月16日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)
11月16～17日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月18日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験 (5名)
11月18～21日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月23～24日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月24～27日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
11月26日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)。ヤギの実験 (4名)
11月29～30日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月2～5日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月6～7日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月7日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)
12月9～10日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月13～14日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月14日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)
12月16～17日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月20～21日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月21日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) シカの実験, 放牧肥育牛実験, エコフイード実験 (3名)
12月23～24日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月27～28日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
12月30～31日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月4～5日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月6～7日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月10～11日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月13～14日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牛の24時間行動調査のため (7名)
1月13～14日	牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月17～18日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査

1月20～21日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月24～25日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月29～30日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
1月31～2月1日	早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名) 牧場採草地への野生シカの侵入調査
2月8～9日	自動撮影装置の点検及び飼料盗食量調査 (1名)
2月8～10日	卒業論文作成のため (2名)
2月10～11日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名)
2月15～16日	自動撮影装置の点検及び飼料盗食量調査 (1名)
2月24～25日	体尺測定のため (1名)
2月24～25日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 早朝 (6:00～7:00), 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査 (1名)
2月25～26日	自動撮影装置の点検及び飼料盗食量調査 (1名)
2月28～3月1日	飼料盗食量調査 (1名)
3月9～10日	牧場採草地への野生シカの侵入調査 夜間 (20:00～21:00) における侵入調査・試験地の日常管理 (1名)
3月9～10日	ライセンス及び飼料盗食量調査 (1名)
3月10～11日	卒論・修論発表会のため (17名)
3月10～11日	卒論発表会のため (1名)
3月17～18日	飼料盗食量調査 (1名)
3月21～22日	飼料盗食量調査 (1名)
3月23～24日	飼料盗食量調査及びライトセンサス (1名)

4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場技術調査報告書, 第16号 (2010.9)
鹿児島大学農学部附属農場年報, 第5号 (2011.3)
鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 第33号 (2011.3)

5) 行事

4月7, 8日 展示即売会および市民農業講座
7月6日 学内農事部田植祭
11月12日 唐湊果樹園収穫祭

6) 平成22年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会

日 時: 平成22年5月6日～7日
場 所: フロラシオン青山 (東京都港区)
参加者: 坂田農場長, 遠城農場主事

(2) 秋季協議会

日 時: 平成22年8月30日～31日
場 所: ホテルパーク (岐阜県岐阜市)
参加者: 坂田農場長, 大島動物部門主任

(3) 九州地域協議会

日 時: 平成22年8月26日～27日
場 所: 琉球大学, マリエールオークパイン (沖縄県那覇市)

参加者：坂田農場長，大島動物部門主任，田浦技術職員，石井技術職員

2 会計事項

1) 予算および決算

平成22年度の農場予算および決算は，第6表のとおりである。予算額100,947,000円に対し，決算額101,106,000円で，159,000円の過不足が生じた。

第6表 平成22年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	300,000	0	300,000	178,000	122,000
農場実習支援経費	40,264,000	0	40,264,000	41,407,000	1,143,000
農場運営経費	53,034,000	5,077,000	58,111,000	57,276,000	835,000
主事	400,000	255,000	655,000	331,000	324,000
植物部門主任	200,000	441,900	641,900	940,200	298,300
動物部門主任	400,000	174,714	574,714	574,000	714
特任准教授	400,000	0	400,000	400,000	0
合計	94,998,000	5,948,614	100,946,614	101,106,200	159,586

2) 機械，設備および備品

本年度は，施設毎の機械，備品を中心に，第7表に示すように総額3,322,375円の予算を充当した。

第7表 平成22年度機械設備等の整備 (50万円以上 予算：自己収入)

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額 (円)	施設名
バインダー 1輪1条	E ヤンマー BE25A, EDW	1台	315,000	学内農事部
寺田 自吸式渦巻ポンプ	OL4G 0.75KW * 50mm	1台	122,500	指宿植物試験場
冷却水循環装置	CCA-1111	1台	454,650	植物部門主任
モルミキ 8	TMM-8	1台	437,325	入来牧場
真空包装機 MEJO2A		1台	402,150	〃
超音波画像診断装置	HS101V/牛用	1台	819,000	〃
フェラーディスク モア	SM208	1台	771,750	〃
合計			3,322,375	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より，作物生産に配慮した輪作体系を組み，田畑輪換も含めた作付体系を実施している。しかし，元来が排水不良地であるため，畑作時における，湿害の発生がみられた。そこで，平成19年度の実習教育改善経費により，排水不良の2圃場（10号：800㎡，と11号：1,570㎡）に暗渠排水を敷設した。今後，輪作体系をみながら，2～3年の年次計画でその他の排水不良圃場にも同様の設備を敷設する予定である。

第三者行為による施設の破損防止の対策として，圃場への出入り口にチェーンを，被害のあった施設周辺にセンサーライト等を設置した。

(2) 唐湊果樹園

本年度はカンキツ，オリーブ等の標本木を植え付ける目的で圃場を新しく整備した。

不知火屋根かけ栽培用のパイプハウスが老朽化しており，建て替えのため3月に撤去作業を行った。来年度早々に建て替えを完了する計画である。

果樹園は唐湊墓地と隣接し，境界をフェンスで張り巡らせているが，一部倒壊し危険であるため早急な対策が必要である。また園内へのゴミの投棄が多く見られ，対策として刈払い等の環境整備を行っているが，改善されないため何らかの対策を講じなければならない。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年，施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため，一部の温室やハウスでは，従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象がどうかを見極める必要があるが，平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており，今後，湯量の確保に向けた方策が必要になる。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工（1968）後、38年を経過し、壁面の亀裂、雨漏り等、老朽化が著しい。近年の女子学生比率増加に伴い、平成20年度は、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行っている。しかしながら、入来牧場管理棟2階部分（宿泊室、講義室）、1階部分（男子トイレ、風呂、食堂）および外壁の改修が課題として残っており、安全性確保の観点から早急な改修が望まれる。平成21、22年度は、諸事情により、これらの改修がなされなかったものの、今後、予算等を勘案しながらそれらの改修を順次行っていく予定である。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築23年を経過し、雨漏りなどの老朽化が目立ってきた。今年度も雨漏り防止のために、屋根の補修を行った。概算要求による全面改修を視野に入れる必要がある。

3 各種会議および委員会

1) 農場会議

(1) 委員名簿

農場長（議長）	坂田 祐介
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
園芸生産学講座	富永 茂人
病害虫制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	吉田 光敏
農業経営経済学講座	秋山 邦裕
生物資源化学科	境 雅夫
生物環境学科	下川 悦郎
獣医学科	出口栄三郎
事務長	稲葉 成人

(2) 会議記録

第1回：平成22年4月30日（金）14時35分～16時

- 議題 1. 附属農場准教授人事について
2. その他

第2回：平成22年7月6日（火）16時10分～16時50分

- 議題 1. 平成21年度附属農場決算（案）について
2. 平成22年度附属農場予算（案）について
3. その他

第3回：平成22年9月30日（木）13時10分～14時10分

- 議題 1. 平成22年度後期農場実習（案）について
2. 平成22年度後期附属農場施設等利用計画（案）について
3. （入来牧場）ソフトバンク IP 基地局候補地について
4. その他

第4回：平成22年11月15日（月）11時～12時

- 議題 1. 市立病院建設に係る日照について
2. その他

第5回：平成22年12月15日（水）17時10分～18時10分

- 議題 1. 市立病院建設に係る日照について
2. その他

第6回：平成23年3月17日（木）16時～16時40分

- 議題 1. 平成23年度前期農場実習（案）について
2. 平成23年度前期施設等利用計画（案）について

3. 附属農場規則ならびに附属農場における実習教育に関する要項の一部改正について
4. その他

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿

農場長 (委員長)	坂田 祐介
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼担教員	佐藤 宗治
兼担教員	山本 雅史
兼担教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	川口 昭二
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
事務長代理	中園 康弘
農場事務係 (総務担当)	桑畑 実代
農場事務係長 (業務担当)	吉住 博孝

(2) 委員会記録

第1回：平成22年4月28日(水) 15時～15時45分

- 議題 1. 平成22年度農場予算の組み方について
2. 口蹄疫への対応について
3. その他

第2回：平成22年6月30日(水) 16時～17時55分

- 議題 1. 平成21年度農学部附属農場決算報告について
2. 平成22年度農学部附属農場予算(案)について
3. その他

第3回：平成22年7月28日(水) 15時～15時50分

- 議題 1. 平成22年度農学部予算による農学部施設維持管理費について
2. その他

第4回：平成22年10月13日(水) 14時～15時10分

- 議題 1. 全国大学附属農場協議会技術賞・教育賞の推薦について
2. 平成23年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会の開催準備について
3. 平成24年度全国大学附属農場協議会の開催準備について
4. その他

第5回：平成22年12月6日(月) 16時～17時5分

- 議題 1. 平成23年度即売会について
2. その他

第6回：平成23年2月1日(火) 15時～15時55分

- 議題 1. 平成23年度実習について
2. 平成22年度残予算について
3. 農場規則の改正案について
4. その他

3) 農場実習教育委員会

(1) 委員名簿

農場長 (委員長)	坂田 祐介
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎

生物生産学科

作物生産学講座	佐々木 修
”	下田代智英
”	佐藤 宗治
”	一谷 勝之
園芸生産学講座	富永 茂人
”	山本 雅史
”	久保 達也
”	橋本 文雄
”	清水 圭一
家畜生産学講座	吉田 光敏
”	高山 耕二
病虫害制御学講座	岩井 久
”	中村 正幸
”	津田 勝男
”	坂巻 祥孝

生物環境学科

環境システム学講座	岩崎 浩一
”	石黒 悦爾

獣医学科

臨床獣医学講座	高木 光博
フロンティアサイエンス 研究推進センター	田浦 悟
生物生産学科 家畜生産学講座	中西 良孝
	岡本 新
	大久津昌治
	三好 和睦
	下桐 猛
獣医学科 臨床獣医学講座	大和 修
	小島 敏之
	出口栄三郎
	窪田 力

(2) 委員会記録

第1回：平成22年9月22日（水）13時10分～13時30分

- 議題 1. 平成22年度後期農場実習（案）について
2. 実習教育委員会経費の用途について

第2回：平成23年3月7日（月）10時30分～11時30分

- 議題 1. 平成23年度前期農場実習（案）について
2. 附属農場規則ならびに附属農場における実習教育に関する要項の一部改正について
3. 農場運営委員会委員の選出について
4. その他

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
作物生産学講座	佐々木 修
園芸生産学講座	久保 達也
病虫害制御学講座	岩井 久
家畜生産学講座	大久津昌治

生物資源化学科	大塚 彰
生物環境学科	石黒 悦爾
獣医学科	窪田 力

(2) 委員会記録

第1回：平成22年9月17日（金）13時10分～13時50分

- 議題 1. 平成22年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：平成23年3月3日（木）10時30分～10時55分

- 議題 1. 平成23年度前期施設等利用計画（案）について
2. その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿

園芸生産学講座（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
作物生産学講座	下田代智英
家畜生産学講座	大久津昌治
獣医学科	叶内 宏明

(2) 委員会記録

第1回：平成22年5月20日（木）9時30分～9時55分

- 議題 1. 鹿児島大学農学部農場研究報告投稿規定及び原稿作成要領の改定について
2. 農場研究報告編集申し合わせの策定について
3. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について
4. その他

第2回：平成22年12月8日（水）13時00分～13時30分

- 議題 1. 鹿児島大学農学部農場研究報告受付原稿の校閲者の選定について
2. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿

獣医学科 臨床獣医学講座（委員長）	出口栄三郎
獣医学科 病態・予防獣医学講座	高瀬 公三
獣医学科 臨床獣医学講座	小島 敏之
生物生産学科 家畜生産学講座	吉田 光敏
〃	岡本 新
獣医学科 臨床獣医学講座	高木 光博
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	片平 清美
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録

第1回：平成22年5月12日（水）13時30分～15時15分

- 議題 1. 家畜防疫対策検討委員会委員長選出について
2. 入来牧場防疫指針案および牧場利用個別案件の審議について
3. その他

第2回：平成22年5月18日（火）10時30分～12時20分

- 議題 1. 農学部全体へ防疫対策のアナウンスについて
2. 大学本部への要望

3. 鹿児島県内で発生した場合の対応

第3回：平成22年5月28日（金）10時30分～12時25分

- 議題 1. 現状と今後の対応について
2. 個別案件への対応について

第4回：平成22年6月4日（金）16時00分～17時25分

- 議題 1. 宮崎県口蹄疫発生事例に伴う鹿児島大学農学部附属農場学内動物飼育棟および入来牧場における
予防措置・対策等について
2. 学部長への要望について
3. 個別案件への対応について
4. その他

第5回：平成22年6月18日（金）10時30分～12時40分

- 議題 1. 動物飼育棟における定期健診のスケジュール化について
2. 動物飼育棟内入棟における、帽子、マスクの着用について
3. 感受性動物以外の動物飼育棟を利用している状況の調査について
4. 動物飼育棟での、消毒液作成および入棟記録簿の作成について
5. 教育、研究に関する状況調査について
6. 学部対策本部レベル別対応（案）について
7. 個別案件について

第6回：平成22年6月25日（金）16時30分～17時10分

- 議題 1. 個別案件について

第7回：平成22年7月2日（金）10時30分～11時20分

- 議題 1. 解除後の対応について
2. その他

第8回：平成22年7月9日（金）10時30分～11時00分

- 議題 1. ヤギ刷込試験のための入来牧場内雑草(ギシギシ)の学内飼育棟持込について(家畜管理学研究室)
2. 学内飼育棟および入来牧場の防疫体制の段階的緩和案について
3. その他

第9回：平成22年7月16日（金）10時30分～11時30分

- 議題 1. 解除後の対応について
2. その他

第10回：平成22年7月23日（金）10時30分～11時20分

- 議題 1. その他

第11回：平成22年7月30日（金）10時30分～

- 議題 1. 学内農場水田へのアイガモ雛導入に関して（出处：溝辺地区、郡山地区）
2. 学内農場圃場産飼料用青刈りトウモロコシの学内飼育反芻家畜への給与に関して
3. その他

第12回：平成22年8月5日（木）13時00分～

- 議題 1. 入来牧場卒論利用者の家畜生産学実習参加に関して
2. 理学部オープンキャンパスに伴う入来牧場内 VERA および 1 m 望遠鏡施設への不特定多数（高校生）の入場に関して【緊急】
3. その他

第13回：平成22年9月2日（木）13時00分～14時25分

- 議題 1. 制限解除に伴う八重山高原星物語実施時期及び実施形態の確認
2. その他

第14回：平成22年10月12日（火）15時00分～15時55分

- 議題 1. 入来牧場内の VERA から望遠鏡までの移動手段に関して
2. 入来牧場内に設置した高付加価値ミニブタ飼育施設の利用について
3. 入来牧場への試験ブタの導入について
4. その他

第15回：平成23年1月26日（水）10時30分～11時20分

- 議題 1. 鳥インフルエンザの対応について
2. その他

第16回：平成23年3月1日（火）13時30分～14時35分

- 議題 1. 合鴨の放飼について
2. 動物飼育棟周辺のフェンスについて
3. その他

4 入来牧場における家畜衛生管理体制の整備について

平成19年3月から7月にかけて、入来牧場において、豚のへい死問題と牛白血病感染問題が相次いで発生した。入来牧場では、このような事態を招いた反省から、家畜衛生管理体制及び運営体制のあり方について関係機関と検討を重ねた。入来牧場が大学内のみならず広く社会から評価される実習教育施設となるため、職員一丸となり家畜管理体制整備に取り組んでいる。ここでは、これまでの経緯を概説し、平成22年度の成果に関して、以下の通り報告する。

1) 豚のへい死問題

平成19年3月の入来牧場飼育豚の物品棚卸し確認作業において、帳簿現在高（数）と現存頭数との間に291頭の差があることが判明した。この原因は、へい死した291頭の豚について、鹿児島大学物品管理規程第11条で義務づけられている「物品不用決定伺」の報告義務を怠っていたことによるものであったため、管理運営体制の抜本的見直しを求められた。また、豚へい死の死亡原因については、本学獣医学科によって、豚繁殖呼吸障害症候群（PRRS）ウイルスと関連した複合感染症あるいは豚回虫による間質性肝炎等によることが推定され、豚飼養管理に関しても不適切であったことが示された。このことを受け、農学部学部長を座長とする「入来牧場問題対策検討会」にて当面豚飼養は見合わせる事が決定されている。

2) 牛白血病感染問題

平成19年7月18日、入来牧場職員より、入来牧場飼養牛に牛白血病ウイルス（以下 BLV）が感染している可能性があることが報告された。農場では直ちに、実態調査を開始し、BLV 血清抗体価検査によって BLV 感染が飼養牛の約6割に及んでいることを確認した。牛白血病は、「家畜伝染病予防法」に基づく「届出伝染病」に指定されているため、農場では早急に牛白血病対策を開始した。「入来牧場問題対策検討会」の決議により平成20年度までに山口浩獣医師の常駐管理獣医師着任、正常牛飼育専用牛舎の新設が完了している。牛白血病はヒトおよび食肉の安全性に問題がないことから、牛白血病対策は主に BLV 陽性牛の順次淘汰による BLV 感染率の低減を主体として行うこととしている。

3) 平成22年度実績

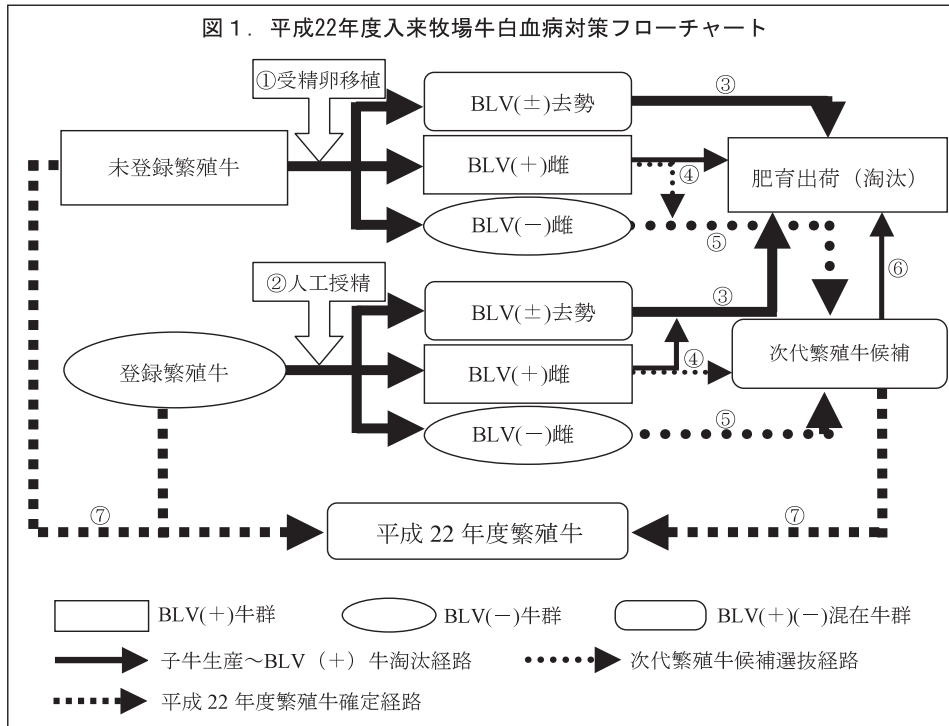
● 豚に関する実績

平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）において、入来牧場管理区域内への豚の搬入および搬出はなされていない。なお、鹿児島大学農学部家畜繁殖学研究室吉田光敏教授の研究施設「ミニブタ豚舎」が入来牧場敷地内で施工されたものの、当該施設は農学部附属農場の管轄外との申し合わせが吉田教授ならびに附属農場との間でなされている。

● 牛に関する実績

【概要】平成22年度における牛白血病対策のフローチャートを図1に示す。現在、入来牧場の BLV 清浄化は、主に BLV 抗体検査結果による陽性区と陰性区に分けた分離飼育、BLV（+）牛の順次淘汰および次代 BLV（-）繁殖牛の選抜に大別されるが、並行して生産牛の能力向上を目的とした牛群の改良（登録の取得）、ならびに実習使用牛の確保が行われている。入来牧場では、牛群の改良の観点から、既存の登録牛および未登録牛に対してそれぞれ人工授精・受精卵採取ならびに受精卵移植を行い、子牛（登録牛）の生産を行っている。（図中、）。得られた産子のうち、雄は BLV 抗体価に関わらず一定期間育成の後、肥育舎（陽性区）に移動し、肥育出荷を行っている（図中、）。また、BLV（-）の雌産子は次代繁殖牛候補として、新育成牛舎（陰性区）にて育成し、その後陰性牧区にて繁殖に供している。（図中、）。一方、BLV（+）の雌子牛と次代繁殖牛として育成過程に BLV 陽転した雌牛に関しては、子牛の生産性を考慮し、一部は次代繁殖牛候補とし陽性区において分離飼育し、子牛生産を行いながら早期淘汰を計画的に進め、残りは肥育出荷を行う流れとなる（図中、）。以上の様な流れから、次年度（平成23年度）繁殖牛として既存 BLV（+）および BLV（-）に加え、BLV（+）および BLV（-）次代繁殖牛候補を保有し、望む予定としている。

【平成22年度牛白血病対策実績】平成22年度における牛白血病対策実績を図2に示す。入来牧場の平成22年度飼養頭数は平成22年4月の202頭から平成22年3月の214頭へと緩やかな増加傾向で推移している。このうち、肥育牛舎に導入した BLV（+）確定牛以外の牛に関して、年間積算1,147頭の牛を対象に採血による BLV 血清抗体価検査を実施し、新生子牛の BLV 感染確認および育成、繁殖牛の BLV 陽転監視を実施した。また、平成23年1月だけは飼



養頭数215頭に対してBLV血清抗体価検査を行っている。その結果、BLV(+)と判定された牛は86頭から66頭となり、割合にして42.6%から31.1%の間で推移した。ただ、同一牛の追跡検査の結果から、BLV血清抗体価検査に用いている試薬の製造ロットにより判定結果が微妙に異なることが認められているため、実質的には全頭を一斉に検査した平成22年1月の結果(陽性率32.1%)が実数に最も近いものと推測される。これらの結果は、図1フローチャートで示した様な平成22年度牛白血病対策が適正に機能し、一定の成果に結びついているものと考えられる。

【今後の課題】牛白血病対策としての初回BLV血清抗体価検査が行われた平成19年10月から平成22年3月現在まで、BLV陽性率は多少の増減はあるものの58.3%から36.4%へと確実に低下傾向にある。しかしながら、図2で示した平成22年度のみを推移を見る限り、BLV陽性率はほぼ横ばい傾向となっている。図1フローチャートでも示した通り、入来牧場では繁殖から肥育までの一貫体制を行っていることから、毎年一定数の実験実習使用牛および生産牛の確保のためには、それらの起点となる一定数の繁殖牛の確保が必要となる。そのため、平成22年度は既存BLV(+)牛およびBLV(+)次代繁殖候補牛の保有が必要であったことがBLV陽性率横ばい傾向の主要因となった。現在、新生子牛の隔離、人工哺乳、BLV(+)および(-)牛の隔離飼育等により、可能な限りBLV(-)次代繁殖候補牛の確保に努めており、さらに、BLV清浄化に対応を始めて以降育成されてきた繁殖雌牛(陰性牛)も子牛生産を始めることより平成23年度末には一定数のBLV(-)繁殖牛が確保され、既存BLV(+)繁殖牛を淘汰することが可能となる。これにより、さらなるBLV陽性率(約23%へ)の低下が達成されるものと期待される。

